

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成27年11月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成27年11月19日(木)

開会：午後3時00分 閉会：午後5時06分

会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

教育長	関川 義雄	教育長職務代理者	小川 新太郎
委員	高木 久美子	委員	福田 理絵
委員	佐藤 勲		

教育総務部長	伊藤 和信	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	鬼澤 正春	学校施設課長	篠塚 正人
学務課長	江邨 一男	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	小川 浩
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課副参事	木川 邦夫
教育総務課課長補佐(書記)	鈴木 浩和		

傍聴人：0人

【会議概要】

1. 教育長開会宣言

2. 教育長報告

主催事業等

○11月5日 第2回学校教育振興基本計画策定委員会について

成田市学校教育振興基本計画の素案について、本策定委員会に提案し、審議していただいた。委員からは様々な意見を受けたが、全般的な内容については承認していただいた。いただいた

意見で特に留意したいものは、「5カ年という期間は長いので、チェック機能を働かせていく必要がある」「成田だからこそ発信できるNo.1構想があった方がいい」「成田らしさが出るこだわりのようなものが欲しい」「まち、成田、地域を元気にする言葉、ビジョンのようなものがあるといい」等々であった。今後、この提言を参考に計画策定にあたりたい。

○11月8日 2015成田POPラン大会について

今回はあいにくの空模様で、朝から小雨が降っており、大会運営に携わった方々には大変ご苦労をおかけした。出場選手は雨にもかかわらず、大変元気に走っておられた。スタート時、一番心配された3km、小学生・オープン参加の部では、スタートラインで選手が整列中に、スターターのピストルが鳴ってしまい、ロープをまたいで走り始める選手が出るなど、危うく事故につながるところであった。本番は何が起こるかわからない恐さもあるが、事前に各担当者同士で確認しておくことは大切なことであり、今後気を付けていきたい。なお、表彰式は雨のため、急遽、雨天練習場内で行うことになったが、狭い中にもかかわらず、テキパキと運営することができた。これで教育委員会が関わる今年の大きな大会は、スカイタウンホールでのいくつかのイベントを除き、ほぼ終了した。教育委員の皆様にも本大会には、格別のご協力をいただき、感謝する。

○11月10日 つくば市小中一貫教育校「春日学園」視察について

小中一貫教育校である、つくば市立春日小学校と春日中学校の小中一貫教育校である春日学園を視察した。これは、文部科学省の「ICTを活用した課題解決型教育の推進事業」の実証研究校としての実績の上に、総務省委託の「クラウド等の最先端情報通信技術を活用した学習・教育システムに関する実証」検証協力校として全国公開を行ったものである。本市からは、これから小中一貫教育を進めようとしている大栄地区の統合推進委員会委員等も参加し、この公開授業の様態を視察した。春日学園は小中併せて1,600人を超すマンモス校である。本市では規模が大きすぎると、小中一貫教育の良さが発揮できないのではないかとしているが、つくば市では、そういった課題はないのか、私も以前この学校を視察したことがあるが、改めて様々な視点で見つめなおす機会を得た。ICTをフル活用できる環境はそう多くはないと思うが、春日学園では開校当初からICTを積極的に取り入れ、まさに最先端の教育を実践している。子どもも教師も機器を完全に使いこなして授業では当たり前のように活用する光景が見られる。こうした学習がもたらす効果はどれほどのものなのか、具体的な数値で示されたわけもなく、判断のしようもないが、授業を見ている限り子ども達の学力は相当なレベルであることがうかがえる。私はむしろ授業公開していない学級をのぞいて、実際はどうか見てきたが、その光景は本市とあまり変わらず、どの学級にも支援の必要な子がいるようであった。ま

た、子ども達の下校時刻に合わせて校門周辺を見たところ、校門脇の送迎用駐車場に塾の送迎用ワゴン車やマイクロバスが何台も並んでいた。また、校門から離れた位置にスイミングスクールや稽古塾のマイクロバスも停車していて、ランドセルを背負い、全速力でバスに向かう子も見られた。この学校の存在は、本市の小中一貫教育校とはいささか異なったものであることを実感したが、ICTの活用については、本市においてももっと力を入れて取り組まなければならない課題だと認識した。

○11月11日 いのちの授業（大栄中）について

成田赤十字病院の新生児科副部長の川戸先生にお越しいただき、大栄中学校で「いのちの授業」を展開した。先生は周産期医療に携わる方で、未熟児や低体重児として生まれてきた赤ちゃんの命をつなぐ仕事をされている。初めは専用の保育室でなければ育てられないような状況で生まれた赤ちゃんが、やがて通常の赤ちゃんと同じぐらいの体重になり、ようやく保育室から出られるようになった時の、ご両親の喜び。また、残念ながら途中で亡くなってしまった赤ちゃんなど、生と死の境目でできる限りの医療をされている姿に、生徒たちも感銘を受けたに違いない。赤ちゃんは両親の愛情をたっぷり受けて産まれること、そして育つまでにはいろいろな方々の力をいただいていること等、良く理解できたものと思う。

○11月12日 平成27年度成田市生涯大学院学園祭について

大栄公民館で生涯大学院の文化祭が開催された。参加された方々の思いは強く、いかに熱心に取り組んできたかがわかるような発表内容だった。私は同日に行われていた北総教育事務所長学校訪問の関係で、プログラムの最初の部分しか拝見できなかったが、参加者の衣装を見ただけでもこの文化祭に対する意気込みが伝わってくる内容であった。学習したことを自分だけに留めるのではなく、こうして多くの方々にも見ていただくことで励みにもなるのだろうと思う。これからも元気に続けていっていただきたいと感じた。

○11月15日 国際こども絵画交流展2015表彰式について

今回からスカイタウンギャラリーでの開催となった。教育委員の皆様にもご出席いただいているが、新しい施設での展示や表彰式は、多くの方々にこの施設を知っていただくためにも大変良いことだと思った。駐車場の問題はありますが、成田の文化を発信する拠点として、このような機会にはどんどん活用していきたい。表彰盾を授与され、満面の笑みを返してくれる子どもたちを見ていると、こうした機会がいかに貴重なものかがわかる。準備や後始末に関わっていただいたボランティアの方々、担当の方々に改めて感謝したい。

その他

○10月28日 平成27年度第二部会小中学校音楽発表会（小学校の部）について

成田国際文化会館で開催される成田市、富里市、栄町の各市町の小学生の音楽発表会である。

ここで、その演奏の良さを認められれば、11月25日に行われる印旛郡市の大会に参加できるとあって、どの学校の児童も大変緊張した面持ちでこの発表会に臨んでいた。小学生による音楽発表は、専門に指導できる教員がなかなか確保できない現状や、発表の機会が少ないこと、練習する時間の制約が大きいこと等々により、今ひとつ元気が出ない状況にある。中学校は専門の教科担任によりそれなりの指導ができるが、小学校では全ての学校に音楽を専門に学んできた教員がいるわけではない。また、音楽の授業時間数も以前に比べ削減されている中、音楽専科の教員を配置できたとしても、音楽だけ指導すればよいというわけにはいかなくなっている。こうしたことから、市全体として音楽教育のレベルアップを図ることも難しくなっている。子ども達の情操教育と言う観点から、音楽の良さをしっかりと味わえるような指導ができる教員の配置、育成について、県レベルで考えてほしい。

○10月31日 成田市消防本部発足50周年記念講演について

スカイタウンホールで開催された。この日は、式典の後、総務省消防庁、消防大学校教授の富岡豊彦先生の講演を伺った。先生は昭和57年に東京消防庁に入庁し、特別救助隊員、同隊長、ハイパーレスキュー隊長、同総括隊長等を務められた方で、阪神淡路大震災や、有珠山、三宅島の噴火災害、国内外の地震災害等に緊急援助隊として参加されてきた。特に東日本大震災の時には、福島第一原発の爆発事故にあたり、東京消防庁の特殊車両から原子炉に放水する場面があったが、その時の現場を指揮する立場にあった方である。当時の様子は私たちもテレビで見たが、高い放射線量の中、見えない恐怖と闘いながら必死の放水を続けてきた消防隊員の様子まではわからなかった。先生のお話を伺って、東京消防庁の特殊部隊が決死の覚悟で業務にあたったこと、新聞やテレビでは伝えきれなかった現場の状況など、私たちがこれまでほとんど知ることができなかった現状を知ることができた。本会の出席者はほとんどが消防関係者だったが、この話を聞いてそれぞれ、改めて自分たちの果たす役割の重要さ、また、その存在の大きさを認識したに違いない。

○11月1日 折り鶴平和使節団長崎訪問報告会について

今回も「もりんぴあこうづ」で報告会があった。市内の中学校から各1名、選ばれた生徒たちによる夏の長崎訪問。世界で唯一の原爆被爆国である我が国は、その悲惨さを世界の人々に伝え、二度と同じ過ちを繰り返さない固い決意が必要である。そういう意味でも中学生が被爆地を訪れ、平和について学ぶことの意義は大きい。今年も11人の生徒たちを引率し、指導していただいた成田市平和啓発推進協議会の方々の協力のもと、報告会を開くことができた。報

告会では、初めに平和啓発映画、「夏服の少女たち」の上映の後、成田国際高校生徒会の発表があり、最後に中学生たちの報告があった。今年も内容は充実しており、中学生たちが大変素晴らしい体験をした様子が感じられ、良い報告会となった。ただ残念なことは、参加者が少ないこと。生徒の家族と学校関係者の他は、一般の方がわずかといった状況で、もっと多くの方にこの発表を聞いていただきたい。できれば発表の場所ももっと考えて、ホールなどではなく、たくさんの方が出入りするような広い場所でもよかったのではないだろうか。映画上映をするためにホールが必要なのだろうか、本来の目的に沿った発表の場を提供した方が良いように思った。

○11月1日 成田ユネスコ協会創立40周年記念祝賀会について

橋内会長を中心に日頃から熱心に活動をされているユネスコ協会の創立40周年記念祝賀会に参加した。成田市ユネスコ協会の活動は、ほとんどがボランティアで行われるため、これを長く続けるには大変な努力が必要だと思う。高い志を持ち続け、それを行動に移すのは容易ではない。協会に所属する方々は年配の方が中心で、比較的時間にゆとりがある方が多いように思うが、それでもこれだけ長い年数を続けるのは容易ではなかったはずであり、今後も活動を継続していただくには教育委員会の支援が不可欠である。

○11月2日 平成27年度千葉県教育庁北総教育事務所所長訪問について

今年度はなかなか日程の都合が合わず、学校訪問の回数が思うようにとれていない。それでも今月は、大須賀小学校、成田小学校、玉造小学校、大栄中学校、津富浦小学校の5校の訪問に参加できた。教育委員の皆様も多くの学校に出向いておられるのでそのお話を伺いたいが、ここでは、私が訪問して思ったことを述べる。各学校でどうであったかと言うより、まず、子どもの学力を高めるために学校ができる限りの力を尽くしているだろうか。全国学力状況調査の結果から、児童生徒個々の「考える力」をどのようにして育もうとしているか、そのような観点で見ると、学校間格差は大きいように思えた。組織的に取組み方を考え、どの学年もどの学級も漏れ落ちなく同じ方向に向かって努力している学校もあれば、学級担任に任せっきりの学校もある。教育委員会としては、全ての学校が同じように取り組めるように導いていかなければならず、様々な機会を利用して口頭で指導・助言するだけでなく、もっと学校に入り込んだ指導が必要だと感じた。

○11月3日 防火ポスター展表彰式について

毎年、文化の日に、防火ポスター展の表彰式を火災予防の啓発もかねて公津の杜にある、ユアエルムで行っている。今年も同じ場所、同じ日時で実施した。ここは多くの一般客がおみえになる場所で、決して特別な場所ではないことから、こうした催しを知らない方も時折おいで

になり、参観されている。表彰を受ける子どもたちは晴れがましい舞台上少し照れながらも嬉しそうにしている。これはこれで子どもたちの励みになるものだと思う。それにしても、最近の絵の展覧会には成田高校付属小や付属中の入賞作品が目立つ。公立小中学校も出品はしているが、そのほとんどは学校としての取組みではなく、各個人の応募に任せている。それはそれで仕方ない面もあるが、やはりこうした催しを行ってみるとちょっとさびしい気もする。

○11月4日 平成27年度第1回教育長・教育委員研修会について

千葉県総合教育センターで教育委員と教育長の研修会が実施された。全体会はパネルディスカッション形式により、「教育委員会制度に関わる現状と課題」について、県教委の金本教育長職務代理者がコーディネーターとなり、市川市、芝山町、浦安市、大多喜町の教育長がパネリストとして討論を行った。それぞれ、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会の代表として参加されたもので、それぞれの市町の新制度に関わる現状と課題について述べられた。午後は分科会で、教育委員の皆様もそれぞれ分かれて研修を受けた。ここでは、分科会の様子を報告する。私は福田委員とともに「学校規模の適正化に向けた取組みについて」の部会に参加した。県立学校改革推進課と南房総市の提案があったが、成田市ではすでに全市的に学校適正配置を実施してきており、内容的にはあまり参考になることはなかったが、学校統合に関連し、南房総市では28台のスクールバスを運行しているとのことで、これには大変驚いた。本市の状況では、スクールバスの委託は、バスの台数が多いと難しい状況にあるため、どのような工夫をしたのか質問したところ、バスは市で保有し、運転業務を委託しているとのこと。これはコストの問題で、本市のように運行そのものを委託するのとどちらが有利なのか、よく検討する必要があるのではないかと感じた。バスを保有すれば、点検整備や車検など、維持管理費が相当かかる。車庫の問題もある。方法はいろいろ考えられるだろうが、統合校が増えれば利用するバスも増える。子ども達の通学手段をどうするか、コスト計算もしっかり行っただうえで、大栄地区の統合校ができるまでに良い方策を考えておきたいと思った。

今回のように千教連と県教委が合同で研修会を開き、教育長や教育委員の資質向上を目指す試みは大変良いことだと思うが、一斉の研修はどうしても人数が多くなり、分科会でも発言するものは限られてしまって、深まりが感じられない。時間的にも余裕がない。もう少し少人数で活発な議論ができる研修を期待したい。

○11月5日 千葉県教育庁北総教育事務所指導室訪問（西中学校）について

指導室訪問で西中学校を訪問した。全職員が授業を展開するため、西中のような大きな学校では、午前中から授業展開が始まり1日実施する。私は午後からの参加となったが、学級数が多いため、1学級あたりほんの数分しか見ることができない。この短時間では教師と生徒の関

係をその雰囲気を感じる程度である。それでも、たったそれだけでも、良い、悪いは感じ取ることにはできる。昨年度に比べて確実に良い雰囲気になってきた。全く授業に臨む気持ちが感じられないような生徒はほとんどいないように見えた。一人一人しっかり学ぶ姿もあった。

○11月6日 平成27年度成田市職員表彰式について

今年は市の功績表彰を受けられた方は5名。内現職で3名、既に退職された方が2名であった。30年勤続表彰は、教育委員会教育総務課の鈴木課長補佐も含めて12名、20年勤続表彰が33名であった。30年勤続表彰が例年に比べて少なかったのは、この当時、市役所が職員をほとんど募集していなかったとのことで、そういう意味では、貴重な存在である。いずれもこれからの成田市を背負い、引っ張っていくリーダーになる方々である。健康に留意して頑張ってもらいたい。

○11月7日 平成27年度印旛地区小学校体操競技大会について

会場が成田小学校だったこともあり、開会式と午前の部を見せていただいた。印旛地区の大会と言っても、体操競技大会に出場する小学校はごく少数で、参加者の学校数で数えてもわずか12校。成田市では成田小学校しか参加していない。四街道市からの参加が一番多く、一昨年までは四街道市の小学校が会場となっていた。体操競技は日本のお家芸ともいえるもので、ご承知のように日本男子は先日世界選手権大会で久しぶりに団体金メダルを獲得したばかりである。女子も徐々にレベルを上げ、既にオリンピック出場を決めている。体操競技は学校体育の域を出て、今ではほとんどが民間のクラブで小さな子どもから練習を始め、徐々に力をつけてきている。そのような経過から、これを学校対抗として小学校段階で競うことについては、反対の意見を持つものも多い。それが参加校の少なさに現れているものと思う。ただ、この大会ではそれほど高度な技を競うのではなく、あくまでも学校体育の延長線上にある程度の発表に留めており、それはそれで評価できるものである。いずれにしても、子どもは様々な可能性を持っている。それをこうした機会に発揮させてあげることが、良いと思う。

○11月11日 平和啓発推進事業「平和映画会と講和」について

桜田小学校で6年生を対象とした平和啓発推進事業があるとのことで、参加した。私は途中からの参加だったので、体育館で戦争体験者の話を聞く場面からその様子を参観させていただいた。平和啓発推進協議会が企画し、学校の協力を得て実施しているものだが、既に戦後70年を経過し、戦争体験者が少なくなっていることから、体験者の話を直接聞けるのは良い機会である。小学生や中学生の頃、機銃掃射を受けたり、空襲にあったり、生と死の境を必死に生き延びてきた人たちの話は、今の子どもたちにとっては、想像もできない恐ろしい話だが、平和の尊さを実感できる場面である。私たちには、こうして世代を超えて語り継いでいくこと

で平和な世界を継続させていく使命があるのだと改めて実感した。

○11月11日 成田市行政改革推進本部について

平成28年度から30年度までの3年間にわたる行政改革推進計画が示された。計画は成田市第5次行政改革大綱に位置付けられた2つの基本方針と各5つの推進項目について、計画期間内に本市が取り組むべき具体的な事項を定めたものである。2つの基本方針の1つは、質の改革、もう1つは量の改革で、教育委員会関係では、質の改革で、11事業、量の改革で4事業が提案されているが、長くなるので詳細は割愛させていただく。

○11月11日 平成27年度三師会連絡会について

医師会、歯科医師会、薬剤師会の3師会が一堂に集まり様々な課題について協議する会である。この会を利用し、学校保健会の表彰も併せて実施させていただいている。今年度は学校歯科医の諸岡廸夫氏と、笠井精一氏に感謝状と記念品を贈呈した。三師会が一堂に会するのは年に一度この日だけであり、先生方も話が弾むようで終始和やかに会が進行した。会の運営主体は三師会だが、市では健康増進課が主体となっている。医師と親しく懇談できるのはこの会だけなので、有意義な時間になった。

○11月13日 平成27年度成田市表彰式について

教育委員の皆様全員にご出席いただき、実施しているので、詳細は省略したい。今回は元教育委員長の荒井清先生が功労賞を受賞したが、本来ならもっと早く表彰しなければならない方であった。ご本人にはあらかじめ謝罪申し上げ、今回の表彰にご出席いただくことができた。本当に申し訳なく思うところである。今後、このようなことのないよう、しっかりと調査し記録していきたいと思う。

○11月13日 第39回関東甲信地区英語教育研究協議会千葉大会について

関東甲信越地区の英語教育研究大会が千葉県を会場に行われた。成田中学校では、この日の午後、県内4か所で行われた授業会場の一つとして協力いただいた。特に、この中で授業を展開していただいた野原智先生には大変なご苦勞をおかけしたが、とても素晴らしい授業を見せていただき、成田中学校に授業参観に訪れた100名を超える英語の先生方に深い感銘を与えることができた。先生は1年生の学級担任で、自分の学級の子どもの達の授業を行ったわけだが、授業はすべて英語。子ども達もほとんど英語しか話さない徹底した授業展開で、これが中学1年生かと思えるほどの素晴らしい出来であった。参観された他地区の一人は、「これは成田でしかできない授業だ。子ども達の話す英語には、小学校から身につけてきた英語のリズムができている。これは、真似しようとしても追いつけるものではない。」との評価をしていただいた。嬉しい言葉だった。

○11月13日 印旛地区教育委員会連絡協議会第3回定例常任委員会について

この日は成田中学校で英語の研究授業があり、常任委員会には参加できなかったが、事務局が本市の学務課であるので、内容については、学務課長を通じて把握したところである。大事なところでは、これから印教連の教育功労表彰があるので、その選考委員に各部会代表を1名選ぶことになっているが、第2部会では、本市の小川委員が印教連会長として出席されるので、選考委員は本市以外の市町からということで、栄町の葉山教育長が選考委員になることで了承されたとのことである。

○11月14日 「学校を核とした1000か所ミニ集会（下総高等学校）」について

下総高校の行事は参加したことが無かったので、今回初めて1000か所ミニ集会に参加させていただいた。ちょうど高校の文化祭に併せて実施されたもので、ミニ集会にも多くの方の参加があるのかと思ったら、高校のPTA役員はじめ高校関係者が数名参加されただけで、さびしい集会だった。もうこのミニ集会の意義はあまりないのではないだろうか。県も生涯学習課が推進してはいるが、その効果も見極めてそろそろ次の手を考えるべきである。

○11月15日 第64回千葉県PTA研究大会印旛大会 in 栄町について

千葉県のPTA研究大会が栄町ふれあいプラザを会場として行われた。私は午前中だけ出席させていただいた。全体会の後、講演があり、ボクシング元WBA世界ライトフライ級チャンピオンの渡嘉敷勝男さんのお話を伺った。渡嘉敷さんは沖縄の出身だが、沖縄で生活したのはほんのわずかな期間だそうで、ほとんど関西で過ごされたとのこと。幼少時代はわんぱくで、いたずらや悪さをしてばかり。ボクシングに興味を持ったのは、同じ沖縄出身の具志堅用高さんのタイトル防衛戦を見て刺激を受け、自分もボクシングをやってみようと思ったということで、ボクシングジムの所属も具志堅さんと同じ協栄ジム。どうしようもない悪が、初めて自分の目標を見つけ、やる気になった瞬間だったという。今回の講演で渡嘉敷さんが一番言いたかったのは、やる気を持って頑張るには、確かな目標があることだと思う。お嬢さんが歌手デビューしたとのこと、その曲に乗って入場したり、身長が低いことから講演中は台の上に載って体が演台から良く見えるようにしたり、おちゃめなところもあって、大変楽しい一時であった。

○11月16～18日 平成27年度第2回成田市職員選考委員会（面接試験）について

行政初級、消防職、保育士、保健師、言語聴覚士等の最終選考試験を行った。面接試験である。受験者は当初併せて113名。数人の辞退者がいたが、今年も多くを受験者を面接した。特に高校3年生が何人か受検していたが、どの子も素直で意欲に満ちていた。市役所職員になってもしっかりと成長できるよう育てていかなければならない。良い刺激を受けた。

《教育長報告に対する主な質疑及び意見》

委員：教育長報告にもあった「学校を核とした1000か所ミニ集会」については、見直しの時期にきているのではないかということについて同感である。私も佐原高校のミニ集会に10年位参加しているが、最近では話し合う内容も大体決まってしまうので、学校にとっては負担となっている気がする。学校が望むような会議であれば、応援したいが、行政主導で開催することが目的となっているような会議はどうかと思う。また、参加した教育長・教育委員研修会の分科会では、教育委員の学校訪問の様子や感想を教育委員会のホームページに載せているという事例を聞き、はじめ感心したが、よく考えると一度の訪問で得たその学校の印象や意見をホームページに掲載することは、その意見が独り歩きしてしまう恐れがあるので、どうなのかと思った。教育委員の意見というのは影響力があるので、気を付けなければならないと感じた。

また、成田小学校の次長訪問に同行したが、成田小学校は先生を育てているということを感じた。担任で苦勞する若い先生に対しても、校長先生は苦勞しながら指導している。こうした姿勢を見て、学校現場の大変さと、必要な取組みを感じた。

委員：成田市表彰式の件だが、今回、遠山中の女子生徒は事績を規則や内規に照らし合わせて奨励賞ということになったが、全国中学校放送コンテスト、全国中学校陸上競技選手権、少年の主張全国大会など、多方面で活躍されたのだから、功績彰を差上げることができなかったものかと思った。今後こうしたケースがあるかどうかは分からないが、表彰基準等について検討していただきたい。また、成田小学校についての話があったが、自分の子どもが通っていた数年前と比べると大きく変わってきていて、あれだけの大規模校でありながらも全国学力・学習状況調査においては、全国平均を上回っている。ここ数年間の校長先生の考え方や取組みが効果を上げているのだと思うが、やはり家庭学習に力を入れていることも、こうした成果につながっていると思う。こうした成田小学校の良さを成田中学校につなげていっていただきたいと感じた。

また、学校訪問で感じたことは成田中学校の音楽室が暗いということで、当日の天候が曇りであったことら、先生の板書が見にくかった。学校の説明では照度はクリアしているということであったが、黒板の前には照明を付けていただいた方がいいのではないかと感じた。

視察をしたつくば市の春日学園については、素晴らしい環境の学校だと思った。開放的で明るく、風が抜けるような設計となっており、大栄地区の新しい学校もこうした素晴らしい学校にして欲しいと感じた。1,600人規模の大きな学校でありながら長期欠席の児童生徒もほとんどいないことにも驚き、授業に関しても小学校1年生から論理的な授業を実践しており、感心した。次世代を生きていくためには、ああしたロジカル・シンキングが必要なかもしれないが、成田市の学校教育において、春日学園の授業をそのままやって欲しいかという、それはどうかという部分もある。やはり人間としての感情などを大事にした授業をしていただきたい。もちろん、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した授業は大事だとは思いますが、こうしたことも考えていただきたい。

委員：学校訪問では、遠山中、豊住小に伺った。豊住小は何度か伺っているが、小規模校の良さがあり、校長先生の暖かい人柄が感じられた。遠山中へは去年、一昨年と訪問したが、その際に比べると生徒の授業態度も大分良くなり、生徒のやる気も感じられた。先生方の努力の成果だと思うので、これからを楽しみにしたい。

つくば市の春日学園は、休み時間に元気に校庭を走り回っていた低学年の子どもたちが、授業が始まる前には、静かに着席していること、不登校がいないことには驚いた。タブレット端末を活用した授業を見ることができて勉強になったが、通信料のことをはじめとして、疑問に感じたことがいろいろあったが、誰にも聞くことができずに、少し消化不良のところがあった。

また、POPランは、雨天の中での開催で参加者もスタッフも大変だったと思う。室内での表彰式はどうなることかと思ったが、うまくローテーションができてスムーズにできた。待機する椅子に順位を表す表示があったので、表彰を行う側からも、誰が何位かということが一目でわかり、準備ができたので良かった。お聞きしたいが、この大会は定員が5,000人のところ、参加者は5,000人を超えていたようだが、実際はどうだったのか。また、当日は雨だったが、この影響で大分キャンセルは出たのか。

大矢生涯スポーツ課長：エントリー数に対する当日の受付人数は87.4%であった。例年90%程度なので3ポイント程度低くなっているが、雨にも関わらず多くの方の参加があり、影響は思ったより少なかったものと考えている。

藤崎生涯学習部長：表彰式の件だが、今回はいろいろと工夫をした結果、例年に比べて45分短縮できた。天気が良くてもっと動きやすい場所でできれば、さらに効率的にできたと思う。

委員：POPランは、やはり表彰式がスムーズにできて良かった。つくば市の春日学園の視察で見させていただいたICT機器を活用した授業は効率がいいと思うが、人間性を育むことについてはどうなのかと疑問を感じることもある。先日の成田中学校の訪問において野原先生の英語の授業を見させていただいたが、生徒と先生が本当に楽しそうに授業をしている姿があった。あのような授業であれば、英語が身に付くのではないかと思ったが、果たしてタブレット端末を使って、同じような授業ができるかと考えると、難しいのではないか。こうしたことから、ICTを活用するにしても塩梅が大事ではないかと感じた。

また、国際こども絵画交流展の表彰式では、素晴らしい作品が展示されていたが、年々レベルが上がっているのではないか。北総教育事務所所長訪問では大須賀小学校他6校に参加させていただいたが、全体的に感じたことは、市内の学校の子どもたちの姿勢がよくなってきたこと。そのために態度も落ち着いているように感じられる。ただし、これは管理職の考え方によるところもあると思う。11月30日から秋田県の小学校への視察を予定しているが、その学校の資料を見るとやはり家庭学習をしっかりとやっていて、コンピューターゲームをやる時間が少ないというデータがあった。やはり学習時間が多くなれば学力の向上につながるので、こうした実情を聞いてきたい。

次に、教育委員・教育長研修では「歴史、文化等の地域資源を活用した教育の推進について」の分科会に参加した。どこの市町でも郷土の歴史などを活用して郷土愛を育てようとしているが、なかなか難しいという意見が多かった。私はそこで、高知県のような農産物などを売り出すためにパッケージデザインをしている梅原真さんというデザイナーの話をしてきた。その方がデザインすると必ず売れる。梅原さんはどこへ行っても、それぞれの地域には畑があり、山があり宝物が埋まっている。自分はそれをどのように商品化すればいいのかを考え、魅力あるパッケージを作るだけだと言っている。どのようにデザインしていくが重要だということであった。そこで、成田市においても素材はあるので、これをどうデザインしていくかが重要だという意見を

述べてきた。また、成田市表彰式では、功績彰の表彰対象者に成田市出身者、在住者が少ないと感じたので、もっと成田市民の受彰者が増えればよいと感じた。

3. 議 事

(1) 議 案

議案第1号 教育に関する事務の点検及び評価について

【鬼澤教育総務課長資料に基づき説明】

(要旨)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育に関する事務の管理や執行の状況について、成田市教育事務評価委員による点検及び評価を受け、報告書を取りまとめたので、議案として提案する。本日の教育委員会会議において可決いただければ、この後、市議会12月定例会に提出するとともに、市のホームページでの公表を予定している。本年度の点検・評価会議については、7月31日、8月26日及び10月2日の3日間で実施した。点検・評価は、施策の体系に基づき、教育委員会各課が所掌する全152事業の中から抽出した39事業について、決算関係や行政評価の資料の調査、担当課ヒアリング等を実施し、報告書として取りまとめた。

なお、評価対象事業については、事業の経年の状況をみるために、継続して評価対象としていく必要があることから、35事業が継続、4事業を新規に対象とした。

資料の1ページでは、施策の基本目標として「学校教育の推進」、「生涯学習の推進」を掲げている。2ページの施策の体系では、基本目標の実現のために、3つの柱を基本施策とし、個別事業を推進するための指標としている。

柱1が「成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る」、柱2が「子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する」、柱3が「生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する」としている。3ページの柱1、「成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る」では、今回の総合評価は、「A：目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる」という結果であった。評価所見では、質の高い英語教育や国際理解教育を実施している点については評価をいただいたが、英語教育の小中連携の取組みや外国人児童生徒の支援を引き続き適切な対応に努めていただきたいという意見を受けた。

また、歴史・伝統文化の分野については、地道な積み重ねの事業であるが、市民への周知と文化財に対する意識高揚に図り、新たなチャレンジをしていただきたいとのご意見を受けた。全体としては、昨年よりも前進している事業が多く感じるとの評価を受けた。次に、12ページは、柱2、「子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する」であるが、総合評価として、こちらもAということであった。評価所見では、事業の内容、方向性ともに評価をいただいたが、事業の一層の充実が求められた。

下総みどり学園が平成26年度に開校し、小中一貫教育の取組みが成果を上げている中、成果を他の中学校区においても実践できる取組みを今後期待するとの意見を受けた。また、複雑多様化している学校現場において、対応が難しい事業が多いなか、それぞれの成果を上げているが、さらなる体制の充実を求めるとの意見を受けた。

学力向上に向けた取組みとしては、引き続き児童一人一人のきめ細かな対応を期待するとともに、地域の教育力を高める効果的な取組みの推進と、また、本市だからこそ積極的で革新的な施策の展開を期待するとともに、常に前への気持ちで取り組んでいただきたいとのご意見を受けた。35ページ、柱3、「生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する」は、総合評価が同じくAということであった。

評価所見では、生涯学習事業については、事業の継続は重要だが、市民ニーズに応じた見直しを図るとともに、学んだことの学習成果を活かせるまちづくりを目指し、事業を推進していただきたいとの意見を受けた。生涯スポーツ分野では、市民がスポーツ施設を快適に利用できるように適切な運営管理と、スポーツ団体の事務局運営の在り方についての意見をいただいた。

以上、本年度の評価結果は、柱1、2、3と全ての柱でAの評価をいただいた。この結果は、昨年度と比べ、柱の1がBからAに評価が上がり、一定の成果を上げているとの評価であった。各事業担当課においては、この評価結果や意見を受け止め、事業の執行に適切に反映してまいりたい。

《議案第1号に関する主な質疑》

委員：教育事務の全般にわたりよく実施されているという感想を持った。英語の授業についての評価が高くなっているが、成田小学校の校長先生が英語の授業は教師がやるものでALTがやるものではない。そのために教師も授業の準備をしっかりとやっているということであった。分かっていることだとは思いますが、英語の教師の方々には、自分が教えるという自覚を持っていただき、さらなる英語教育の充実に努めていただきたい

い。

また図書館については、生涯学習という位置付けで捉えていると思うが、今年の8月に鎌倉中央図書館の司書の方が、学校が始まるにあたって、「どうしても学校に行きたくない子は図書館にいらっしやい」ということをツイッターでつぶやいたところ、すごく反響を呼んだということがあった。いろいろな課題はあると思うが、どうしても学校になじめない子どもの受け皿としての役割を図書館が果たせればいいのかという感想をもった。

委員：スポーツ広場管理事業の評価において、「利用機会の公平性が担保されていない部分が見られる、ルールを統一化し、基本的な運営マニュアルのようなものを教育委員会が示し、市民が公平に利用できるようにするためにも、一層の指導と対処が望まれる」とあるが、これはどういうことか。

大矢生涯スポーツ課長：市民全体の施設であるため、公平な受付をし、受付方法等のルール化をしていただきたいということである。

委員：平成26年度に成田小、吾妻小、公津の杜小の5年生の社会科でデジタル教科書を導入したということだが、使用状況や使ってみた中での問題点等はあるか。

江邨学務課長：昨年度3校で試験的に導入したが、本年度は小学校全校に配置した。使用状況については、1学期の段階ではまだ活用状況も進んでいなかったが、最近訪問したところでは十分に活用されている。また、中学校では成田中、西中、公津の杜中に試験的に社会科のデジタル教科書を導入しており、結果を見て可能であれば、来年度には中学校についても全校に配置したいと考えている。

委員：「個性を生かす教育推進事業」における少人数学習推進教員については、この推進教員活用の研究を十分に行っていただきたい。

江邨学務課長：少人数学習推進教員については、少人数指導を行うことを一番の目的としているが、学校の実情により、チームティーチングや取り出し授業、放課後の学習指導、部活動等も含めて様々に活用している。各学校の授業の様子も見ているが、本務教員

と推進教員の分担を考え、さらに効果的な活用方法を検討していきたい。

委員：「学力調査事業」については、評価結果に、「児童生徒一人一人の学力や学習状況を把握し、指導方法の工夫改善を行うためには必要な事業であり、毎年継続して実施する意義はある」とされている。意義はあるので、この結果を十分に活用して実践していただきたい。「特色ある学校づくり事業」で評価結果に、「単なる事業の繰り返しにならないように」とあるが、まさにこのとおりで、マンネリ化せず毎年進化していくような取組みを各学校で進めていただきたい。「青少年健全育成事業」では、評価結果に「成果の見えにくい事業も多く、その原因の一つとして事業報告のあり方が考えられる。市から支出した補助金などに対して、事業ごとに費用対効果を検証するとともに、見直す必要があるものについては見直していくなど、改善や指導をしっかりと行う必要がある」とされているが、私もそのとおりだと思う。

委員：今回は、柱の1から3までの総合評価がすべてA評価になっており、柱1の総合評価がBからAになっているが、これはどういった取組みがこの評価につながったものか。また、「英語科研究開発事業」の評価結果に「読む、書くことなどの相対的な学力に関することも、他市や県レベルでの比較などを行い、さらなる検証を」と記載されている。これは昨年度も指摘されているが、これについてはどのような対応がなされているか。

鬼澤教育総務課長：柱1の総合評価がA評価になった理由は、個々の事業において、昨年度はA評価が3事業、B評価が4事業であったものが、本年度はA評価が4事業、B評価が3事業となっており、個々の事業の見直し等が行われ前進が見られたということを受けて、このような結果となった。なかでも「成田山門前町研究事業」について昨年度よりも前進したという評価をいただいた。

大竹教育指導課長：英語教育の「読む」「書く」については、成田市で行っている学力調査事業の際には英語も含めて実施しているので、他の市町や全国平均との比較も可能にはなっている。英語の力がどのくらい伸びているかということについては、これまでコミュニケーション能力の向上に向けて「話す」「聴く」ということを中心にやってきた。しかしながらグローバル化の流れのなかで、現在、「書く」ということを小学校のレッスン

プランの中でどの程度入れていくかということを検討し、少しずつ時間を増やしているところであり、他市との比較といった検証ができる状況にはないというのが現状である。したがって、コミュニケーション能力や英語に関する関心の高さが、学力の向上にどのようなにつながっているかといった検証については、今しばらく時間がかかるものと考えている。

関川教育長：実は昨日の職員採用の面接試験において、成田市内の小中学校を卒業した受験者に、「小学校の英語教育は役に立ったか」という質問をしたところ、全員が「非常に役に立った」と答えていた。中にはそれで英語に興味をもち成田国際高校に進んだという生徒もいた。また、小中学校では授業の中でマンツーマンで話す機会が多くあったのに、高校に進んだら文法等机上の勉強ばかりでつまらなくなったという生徒もいた。こうしたことから、これまでの成田市の英語教育は子どもたちに英語に興味を持たせることについては、非常に大きな効果を上げているということが確認できた。

《審議結果》

可 決

(議案第2号は成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第2号 平成27年度12月補正予算要求書(教育費関係予算)の提出について

《審議結果》

可 決

<非公開を解く>

議案第3号 平成27年度末及び平成28年度成田市立小中学校教職員人事異動方針について

【江邨学務課長資料に基づき説明】

(要旨)

平成27年度末及び平成28年度成田市立小中学校県費負担教職員の人事異動は、千葉県教育委員会の人事異動方針並びに人事異動実施細目に則って行われるが、これに際して、成田市教育委員会としての人事異動方針を定めるものである。

資料の3ページ、1の基本方針では(2)で、昨年度は「全市的な視野に立ち、成田・下総・大栄地区間の積極的な人事交流と学校の実情を考慮した、バランスの良い配置に努める。」としていたが、下総・大栄との合併からすでに10年近くが経過し、また、下総地区については下総みどり学園の開校により学校が1校だけになっていることから、「成田・下総・大栄地区間の積極的な人事交流と」という文言を削除した。2の管理職については変更がない。3の一般職員については(3)で、昨年度は「新規採用後3～5年目の教員が異動する場合は、人材育成の観点から本市内の配置換えを原則とする。」としていたが、「原則とする」という表現は強すぎると考え、「積極的に推進する」という表現に変更した。また、(6)については、昨年度、「小中連携教育の充実を図るため、異校種間の計画交流（小学校教員を中学校へ、中学校教員を小学校へ）を積極的に行う。」としていたところに、新たに「特に大栄地区の学校については、義務教育学校の設置に向けた人事に配慮する。」という文言を追加した。これは現在、大栄地区に5つある小学校と1つの中学校が、数年後には、小中一貫教育校として1つになることを見通して、今から人事配置に配慮していく必要があるためである。

《議案第3号に関する主な質疑》

委員：基本方針において、成田・下総・大栄地区という表記がなくなったことで、漸くひとつの成田市となったように感じる。一般職員で一般的には同一校勤務7年のところ、小規模校においては5年とあるが、これは配置された先生方への経験上の配慮ということか。

江邨学務課長：そういった面もある。また、他校とのバランスもあるため、本市独自に設けた基準となる。

委員：校長先生は地域の実情等も考慮して学校経営をしていると思う。そうした場合、目指すべき学校づくりに向け人事面の要望もあるのではないかと思うが、そうした要望等は生かされているのか。

また、新任の先生は5年で異動ということだが、10年を過ぎると市外の学校へ異動しなければならないのか。

江邨学務課長：来月を中心に全校を回って校長先生の人事についての要望等を伺う予定であり、できる限り尊重していきたい。また、県では10年を経過した職員については他市の学校への異動を規定しているので、それが基本となる。しかしながら、このことについては県と十分に協議し、本市の要望を伝え、個別対応等弾力的な運用をお願いしていきたい。

委員：成田市で育ったいい先生が、他市の学校へ異動していくのは惜しい気もする。

江邨学務課長：市外の学校で一層力をつけて、さらにいい先生になってまた本市の学校に戻ってきていただきたいと考えている。

関川教育長：どの市町村でも状況は同じだと思う。新採5年で異動した後は7年間いるので、12年間は同じ市内の学校いることになる。現在県において、この期間を過ぎると市内では異動できないシステムを作っているため、市だけでは対応できない。その代りとして、いい先生が異動してしまうような場合は、県に対して同じくいい先生を成田市内の学校に配置していただくようお願いしていきたい。

委員：これはお願いだが、校長先生については長くやらせていただきたい。特色ある学校づくりを文部科学省は推奨しているが、これには最低でも3年程度は必要だと思うので、配慮していただきたい。

また、中学校の先生の異動については、一度に多くの異動を行うことは、その学校が荒れる原因にもなりかねないので十分に考慮していただきたいと思う。

《審議結果》

可 決

(2) 協議事項

協議第1号「義務教育学校の設置について」

【鬼澤教育総務課長 資料に基づき説明】

(要旨)

義務教育学校については、10月の教育委員会会議定例会でも触れたが、本日あらためて協議させていただきたい。まず、「学校教育法等の一部を改正する法律」が本年6月24日に公布され、平成28年4月1日施行され、これまでの小学校、中学校に加え、義務教育学校という新たな学校種が創設される。本市では、現在、施設一体型小中一貫教育を実施している下総みどり学園と、今後開校を予定している大栄地区統合小学校及び大栄中学校を義務教育学校へ移行したいと考えている。

義務教育学校の概要だが、まず、名称として、学校名に必ずしも「義務教育学校」と付さなければならぬものではなく、現在、通称名で使用している「下総みどり学園」を正式な名称とすることができる。修業年限は9年とし、小学校段階に相当する6年間を前期課程、中学校段階に相当する3年間を後期課程に区分する。そして、9年間の教育課程において「4-3-2」あるいは「5-4」などの柔軟な学年段階の区切りを設定することが可能となっている。ただし、これは、前期および後期課程の目標を達成するために変更するものではなく、カリキュラム編成上の工夫や指導上の重点を設けるための便宜的な区切りとして設定することを想定しているもので、例えば、教科担任制や、生徒会活動などを小学校の高学年から導入して、学年の区切りをつけることも可能となっている。教職員定数は、前期課程は現行の小学校と、後期課程は現行の中学校と同等の標準となる。管理職は4名になり、例えば校長1名、副校長1名、教頭2名、または校長1名、教頭3名といったかたちになるが、下総みどり学園では前者のパターンになっている。義務教育学校の教員は、小学校及び中学校の教員免許状を併有しなければならないが、当分の間、小学校教員の免許状を有する者は前期課程、中学校教員の免許状を有する者は後期課程の教員になることができるとされている。

次に義務教育学校の効果としては、下総みどり学園では、4-3-2の学年区分や小学校5

年生から段階的に行っている教科担任による授業や、部活動への参加といった特色ある取り組みが行われているが、これらが法的根拠を持つこととなり、継続性、安定性が図られる。事務処理においては、現行制度では小中学校それぞれで文書を提出したり、研修会や会議などに出席したりしなければならないが、学校組織が一つになることで、こうした負担の軽減が期待される。都道府県教育委員会は、他校種免許状の取得のための免許法認定講習の積極的な開講や、その質の向上等により、小学校及び中学校教員の免許状の併有のための条件整備に努めることとされていることから、免許状併有が促進されるものと考えられる。小中学校の免許状を併有している教員は1年生から9年生まで学級担任を持つことができる。例えば、現在、下総小学校籍の教員が、来年度、持ち上がりで下総中学校の担任となるためには、現行制度では人事異動が必要となるが、義務教育学校においては校長裁量で柔軟に対応することができる。

今後、設置条例の制定を始め、必要な例規改正等、所要の事務処理を踏まえ、義務教育学校へ移行していきたいと考えているが、これには説明会の開催等により地元理解を進める必要があること、あるいは義務教育学校の具体的な教育課程の特例等については、未だ政省令が出されていない。このようなことから、義務教育学校への移行については、平成29年4月1日とし、まずは下総みどり学園を本市の義務教育学校に位置付ける方向で検討していきたい。

《協議第1号に関する主な質疑及び意見》

委員：現在、成田市としては下総みどり学園で小中一貫教育を行っているが、実際には小学校と中学校が存在しているわけで、成田市が目指す小中一貫教育とは矛盾する部分もあると思うので、早期に義務教育学校に移行すべきだと思う。このことにより柔軟な学校経営ができることになる筈なので、下総みどり学園については、早く義務教育学校に位置づけていくべきだと思う。

伊藤教育総務部長：法律上は平成28年4月1日には移行が可能となるが、例規改正をはじめとした様々な準備が必要になる。当初は平成28年4月1日の移行を検討したが、政省令が未だに出していないということもあり、平成29年度の移行ということで、協議をお願いしたい。

委員：政省令が間に合わないからできないということか。

伊藤教育総務部長：法律に位置づけられたので、義務教育学校を設置することは可能だが、細かい省令等が出ていないことから、どのようなかたちで義務教育学校を運営していくのかということがまだ示されていない。当初の予定では10月頃ということも見込まれていたが、遅れていることもあり、慎重な対応を要するものと判断した。

委員：下総みどり学園では4－3－2とするということか。また、大栄地区でも行うとなると学校毎に違った教育課程になるのか。また、現状では小学校を卒業してから私立に進学する子もいるが、義務教育学校の場合は、小学校卒業ということではなく他の私立中学校に入学することになるのか。

関川教育長：教育総務部長が説明した細かいことが定かになっていないという部分が、まさにそういうことで、明らかになっていないという内容になる。今までは小学校卒業時に卒業証書を交付していたが、これをどうするかということも具体的には示されていない。義務教育学校の前期課程を終えたという修了証書を交付することが考えられるので、6年間を終えた時点で他の私立中学校に進学することは、当然できることだと思う。これは他の小学校と同じように対応できると考えている。

伊藤教育総務部長：教育課程については、修業年限は9年とし、小学校段階に相当する6年間を前期課程、中学校段階に相当する3年間を後期課程とする。そして、この9年間の教育課程を4－3－2や5－4などの柔軟な学年段階の区切りを設定することが可能とされているが、ここが義務教育学校の特色になるので、大栄地区の学校では4－3－2にとらわれず、5－4にすることも可能となる。

関川教育長：4－3－2でも5－4であっても実質的に変わるものではない。9年間の学校として捉えて、そのうち6年間を前期課程、3年間を後期課程としているので、これは学校運営をしやすくするために便宜的に設けているものと理解していいと思う。小中一貫教育校の場合は4－3－2と5－4が多いが、これは9年間を通じて、どのように子どもを育てて、ひとつの区切りを終えたことを子どもたちにどのように自覚させて次のステップに進ませるかという、校長の学校経営方針に則って作っていくものだと思う。し

たがって、教育委員会が指示していくものではないと考えている。

実は、私もできれば平成28年4月の移行を目指したいと考えていたが、事務的に困難であることや、本市の現在の状況を考慮し、事務局内ではやむを得ず平成29年4月移行を目指すということになった。

(3) 報告事項

報告第1号 成田市小中学校ロードレース大会の結果について

【大竹教育指導課長資料に基づき説明】

(要旨)

本年度36回目となる小中学校ロードレース大会を、11月18日(水)に中台運動公園のトラックから外コースまでの特設コースを設定して実施した。参加対象は、小学校5年生男女、6年生男女、中学生男女で、6部門でのレースとなる。参加者は、各学校学級数に応じて各レース最大5名までのエントリーで全体では542名であった。結果は、配付資料のとおりで、最終ページに入賞者の一覧がある。このレースでは15位までを入賞としている。今大会はコースを変更して3回目になるが、6部門の内、小学校5年男子を除く5部門で6人が大会記録を更新した。

4. 教育長閉会宣言